

< 審議会でのご意見を踏まえた奈良県スポーツ推進の基本理念 >

奈良県のスポーツ推進の理念	審議会でのご意見を踏まえた上で取り組んでいく事項
<p><b>①「楽しく」「自発的に」スポーツに継続的に親しめるよう推進する</b></p> <p>・運動・スポーツの習慣と継続により、心と身体の健康の維持・増進を図る</p>	<p>国体開催を契機として県民の健康な心身の育成をする。                      身体の健康だけでなく、ストレスの解消など心の健康の観点からもスポーツを推進していく。                      健康維持のため、日常の外出など身近な活動量を増やしていく。                      「自立して動けること」が高齢期のQOLを高めるので、楽しく生涯スポーツを続けられるようにする。                      スポーツに親しみ、楽しむことが重要。楽しさがスポーツの原点であるので、楽しいと感じてもらえる取り組みを行う。                      生活習慣病予防、疾病対策には運動・スポーツが大切。国体開催を契機に健康意識を向上させる。</p>
<p><b>②適切な指導など安全・安心に配慮された環境のもとでスポーツを推進する</b></p> <p>・医科学との連携による怪我や障害などを防いだ指導や、身近な場所で安全・安心してスポーツに取り組める環境をつくる</p>	<p>女性のスポーツドクターの育成や、小中学生の指導者向けに医科学連携を行う。                      指導者育成に、医大の健康コンテンツやスポーツ医科学を活用する。ATの計画的な育成を行う。                      運動スポーツの楽しさを体験し、自信をつけてもらうため、指導者の質を高めて「伸ばせる指導者」を育成する。                      身近な場所で気軽にスポーツ指導を受けられる環境やシステムをつくり、親子や家族を巻き込んでいく。                      30～40代が身近な場所で運動できる環境をつくる。                      既存の施設の安全性を高めるだけでもスポーツの環境ができるので、対応する。                      みんなが気兼ねなく楽しめる場所、運動・スポーツに取り組める環境をつくる。</p>
<p><b>③アスリートが輝き活躍できるようスポーツを推進する</b></p> <p>・県民に夢やあこがれ、勇気・感動を与える存在となるアスリートが活躍できる場や機会をつくる</p>	<p>国体開催に向けて、奈良県出身の選手を育成する。そのために、タレント発掘・体験会を行い、スポーツの普及にもつなげていく。                      選手育成は中・高・大と連携して取り組む。                      国体で奈良県の選手が活躍するのを応援することで、スポーツを「見る」ことにつなげていく。                      同世代のパフォーマンスを見る機会を設け、スポーツをするきっかけをつくる。                      地元の人が一流選手に触れる機会を設けるため、適切な規模の施設を整備する。</p>
<p><b>④子どもたちが豊かな心と人間性をはぐくむ基礎となるようスポーツを推進する</b></p> <p>・遊びからスポーツへ展開する中で身につける体力や社会性などにより子どもを発達段階に応じてはぐくむ</p>	<p>運動、スポーツの楽しさは幼児期から教えることが大切なので、機会・環境をつくる。                      自然環境を使い、子どもたちに身体を動かす喜びや楽しさを伝えるための、幼児向け運動・スポーツプログラムを実施する。                      スポーツを通じて、スポーツマンシップやフェアプレーの精神を学んでもらい、「人づくり」につなげる。                      子どもが発達段階に応じて主体的に遊びながら身体を動かすことを学ぶため、プレイリーダーの配置に取り組む。                      子どもの遊びが身体を動かす工夫や小さな社会性を身につける場となる。ゆるく集まれて自由に遊びながら体力、コミュニケーション力、社会性を身につける場所をつくり、大人になってからの身体を動かす習慣につなげる。</p>
<p><b>⑤地域の交流やきずなづくりが図られ地域の活性化に資するようスポーツを推進する</b></p> <p>・身近な場所で集まり運動・スポーツをすることを通じて地域内の交流ときずなを強める                      ・地域資源を活かしたスポーツイベント・大会の開催、ツーリズムの推進により地域内外の交流や活性化を図る</p>	<p>コロナで孤立する人が増える中で、絆づくりが重要である。スポーツを通じて交流することで、地域社会の再構築につなげる。                      地域の相互扶助関係の構築や横のつながりを作るのに、運動・スポーツは有効なツールであるので、推進していく。                      国体や大会開催に向けて地元を巻き込んで交流し、スポーツをしない人も興味を持つきっかけにする。                      総合型地域スポーツクラブを含む地域の人々が、自分たちで大会運営をして盛り上げられる仕組みや成長できる場所をつくり、組織のレベルを上げていく。                      スポーツツーリズムによって、地域を活性化する。</p>
<p><b>⑥共生社会の実現に資するようスポーツを推進する</b></p> <p>・性別、年齢、障害の有無、経済・地域事情によりスポーツ環境の差が生じず、相互理解の促進につなげる</p>	<p>SDGsの方針を取り込んでスポーツ振興を目指す。                      パラリンピックは障害を知るきっかけや相互理解に繋がった。障スポ大会を通じて、障害者の有無に関わらず「だれもが」スポーツをする環境をつくっていく。                      パラリンピックの影響も大きい今、障害者スポーツを強化していく。</p>